

水稻生育情報 (No.5)

令和4年7月12日
茨城県西農林事務所経営・普及部門
(筑西地域農業改良普及センター)

【生育概況】

5月から7月第2半旬までの気象は、平均気温が平年より積算で9.9℃高く、降水量は平年比91%、日照時間は平年比116%となりました。

水稻定点調査における管内の「コシヒカリ」生育状況を表1に示します。7月8日現在の生育は、草丈は平年並み、茎数は調査地点によってバラツキがあり、葉色はやや淡い～淡くなっています。幼穂長からみた出穂期は、平年並みからやや遅くなっています。

表1 水稻定点調査結果 (7月8日現在：コシヒカリ)

調査地点	田植日	植付株数 (株/坪)	草丈 (cm)	茎数 (本/㎡)	葉色		幼穂長 (mm)	出穂予測日 (月日)
	(月日)				(葉色板)	(SPAD値)		
筑西市	5月5日	61	78	457	3.4	31.1	2.3	7月31日
一本松	(5月3日)	(51)	(81)	(504)	(4.1)	(34.4)	(11.6)	(7月28日)
下妻市	4月30日	48	82	586	3.4	30.2	9.7	7月26日
加養	(5月1日)	(47)	(84)	(526)	(3.8)	(34.8)	(17.0)	(7月25日)
桜川市	5月4日	51	78	491	2.9	29.9	4.8	7月28日
真壁町飯塚	(5月5日)	(52)	(80)	(520)	(3.8)	(33.8)	(4.3)	(7月30日)

※()内は平成29～令和3年の5カ年平均値

※出穂日は今後の天候により前後する場合があります。

【今後の管理のポイント】

1 水管理

出穂期30日後(5月上旬移植で8月末まで)までは間断かん水を続け、根に酸素と水分を与え粒を大きくしましょう。

2 いもち病対策

7月前半は曇りや雨が多く、いもち病が発生しやすい気候の見込みです。現在、密植で風通しの悪い圃場や山際の圃場等ではいもち病の発生が確認されています。上位葉(止め葉から1～3枚目)で発生が認められた場合は、速やかに防除を行きましょう。



葉いもち(引用:茨城県病害虫防除所)

3 カメムシ類対策

カメムシ類が出穂期～糊熟期にかけて穂を吸汁すると、斑点米や不稔粒の発生につながります。

●除草

出穂前は畦畔等のイネ科雑草に潜んでいるので、除草して生育密度を下げましょう。なお、出穂直前の除草はカメムシを水田内に追い込む事になるので、出穂前2週間以降の除草はしないようにしましょう。

●農薬による防除

①成虫を対象とした農薬による防除適期：穂揃期

この時期に成虫を多く確認した場合は、防除を実施します。

②幼虫を対象とした農薬による防除適期：出穂後10～15日頃(乳熟期)

乳熟期以降の幼虫密度が高いと斑点米の発生が増えることから、この時期に防除することが重要です。



クモヘリカメムシの成虫と幼虫